



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2022年
2月10日
発行

第122回

「企業業績は好調持続」

～株式市場の下支え要因に～



初めに

FRBの利上げ観測から株式市場は一時大荒れになりましたが、足元では落ち着きを取り戻しています。その一因は、決算発表で企業業績が好調であると確認されたことにあると見ています。今回は現在進行中の決算発表についてコメントします。

電子部品は好調持続

デジタル化を追い風に業績を伸ばしているのが電子部品メーカーです。日本電産は4期振りに最高益を更新、アドバンテスト・島津製作所・日東電工なども好決算となりました。仮想空間メタなどにより今後も半導体の需要は旺盛と思われることから、電子部品メーカーの業績は好調が続くと思います。

大手電機メーカーも好決算

大手電機メーカーの決算も良好です。デジカメが好調だったキヤノン、中国からの需要が旺盛なファナック、これまで他社に比べ構造改革の出遅れが指摘されていたパナソニックもEV用蓄電池の好調などから好決算となりました。なお半導体不足が続く任天堂の決算は、あまり良くないように見受けられました。また今後ゲーム分野の主戦場がメタなどに移行することが見込まれる中で、ハード中心の任天堂の先行きを懸念する見方もあります。

内需系企業の業績も回復

今回の決算発表の特徴に、新型コロナに悩まされてきた内需系企業の業績改善があります。例えばANAですが、10-12月の営業利益は8四半期振りに黒字となりました。国内線の利用が増加したこと、依然として海上輸送が滞っているため国際貨物輸送が伸びたことなどが理由です。JR3社もそうです。緊急事態宣言解除を受けて鉄道利用が回復、3社とも営業損益が黒字になりました。三越伊勢丹やゼンショーなどの業績も改善しています。最近株式市場ではバリュー株への関心が高まっているようですが、単なる出遅れ感だけではなくこうした業績の改善に対する関心もあると見ています。

トヨタの今後注目

自動車では日産や三菱自動車が好決算となりました。円安や海外での値引き抑制が寄与した模様です。一方トヨタの決算は、半導体不足や新型コロナの影響による生産の停滞などがあり、良い決算とは言えないと思います。加えて出遅れを指摘されるEVの問題もあります。今後トヨタがどのような戦略で立て直しを図るか注目しています。

業績好調は続く

ここまでお話ししたように、今回の決算も日本企業全体で言えば好決算だと思います。このように、インフレや新型コロナなどの悪材料がありながら企業業績が好調を続けている一番の理由は、世界経済が強いことです。技術革新により魅力的な商品やサービスが次々と生み出されている状況は変わらず、また多額の資金を必要とする温暖化対策も企業にとってビジネスチャンスです。こうした点を踏まえて、今後も世界経済は好調を続け、株式市場を下支えすると見ています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あつせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。